

2015年度 事業報告書

茨城県内への避難者・支援者ネットワーク
ふうあいねっと

(2015年4月1日～2016年3月31日)

1. 事業実施の方針

茨城県内で生活する約3500人の福島県からの広域避難者の「孤立防止」の取り組みを進めるとともに、情報提供など「生活再建」のためのサポートを行う。さらに長期的な視野に立ったサポート体制をつくることが重要であり連携先を広げるなど「組織強化」も目的の一つとして活動を行う。また本年度は震災から5年という節目の年でもあり、ふうあいねっと主催のイベントを関係団体とともに行う。

2. 事業報告

① 孤立防止のための「ふうあいおたより」の発行

・孤立防止のために「ふうあいおたより」を年3回(6月、10月、2月)発行し、ボランティア、市町村のご協力により県内約1500部発送した。

② 連携強化・ネットワーク拡大のための取り組み

・茨城県内市町村の広域避難者の担当課との情報交換会を7月に実施。

③ 訪問支援活動と多様な専門機関へのつなぎ

・個人情報保護法の課題もあり件数は限られているが、ふうあいねっとが持つ避難者リストをもとに訪問活動を継続した。必要な場合には、様々な専門機関への引継ぎや連携を行った。

④ 5周年記念イベントを実施

・震災から5年という節目の年を迎えるにあたり、「3.11 東日本大震災 5周年特別企画～これからも寄り添い・つなぎ・伝え続ける」と題し、いばらきコープにご協力いただきイベントを開催。

野外では、福島と茨城の食の交流として、福島大学生の福島産米の販売、那珂湊焼きそば大学院による焼きそばの販売、いばらきコープのスープ、菓子提供を行った。

屋内では、茨城大学院生の小野田明さんが製作した「ある町」上映、福島生活協同組合連合会 佐藤一夫さん基調講演「東日本大震災・原発事故から5年 福島は今…」。終了後、映画、基調講演や自分たちの思いを話すりレートークを実施。上映会・基調講演の参加者は約60名

⑤ 活動の自立に向けた取り組み

・長期的な組織運営のために、地域の方からの寄付等を募る、企業との連携強化など、経営基盤の自立化のための取組みを強化した。(例、おたよりへの広告掲載等)